

第3回野洲駅南口周辺整備構想検討委員会結果報告について

1. 開催日時等

平成24年12月26日(水) 午前10時00分～12時00分 於：野洲市役所本館 3階第1委員会室

2. 委員等

＜出席委員（18名中17名）＞			50音順
1号委員（学識経験者）			
及川 清昭 委員	松岡 拓公雄 委員長		
2号委員（関係機関・団体を代表する者）			
太田 正己 委員	鍛冶 平太郎 委員	鈴木 あつ子 委員	
立入 誠悟 委員	中田 幸子 副委員長	森野 百代 委員	
山本 真嗣 委員			
3号委員（行政機関）			
小川 文章 委員	谷村 定義（代理：城居 弥寿彦） 委員	橋 俊明 委員	
4号委員（公募）			
兒玉 志織 委員	前田 基良 委員	西村 昇 委員	
5号委員（市長が認める者）			
樋口 俊助 委員	平野 剛 委員		

＜欠席委員（1名）＞			
2号委員（関係機関・団体を代表する者）	間宮 美佐緒 委員		

＜傍聴者＞

5名

3. 議事等

1) 駅前に必要な機能とゾーニングの検討

＜検討課題＞

○健康をテーマにしたにぎわいづくりは可能か ⇒ **可能**

- | | |
|---------|--|
| A
委員 | <ul style="list-style-type: none">健康は今後更に重要視されることから良いテーマである。健康を維持する視点でのスポーツは、人と人のつながりや交流が期待できる。 |
| B
委員 | <ul style="list-style-type: none">今回の提案では、にぎわいの観点で地元の商業活性化の部分が薄く感じるので、駅前には地元商業を活かすスペースが必要。健康をテーマに取り組んだ場合、地元商業との連動のイメージが見えてこない。ものづくりのまち、ITのまちといったイメージが薄く、駅前でもっとアピールすべき。 |
| C
委員 | <ul style="list-style-type: none">健康をテーマとした駅前づくりをすることは新たな試みで、まちづくりのテーマとしても良い。市内にある希望ヶ丘文化公園など健康づくりに効果的な施設との相乗効果も期待できる。駅前に病院があることは魅力である。 |
| D
委員 | <ul style="list-style-type: none">駅前にジョギングできる空間があっても良いと考える。イメージとして大阪城公園のようなジョギングコースが駅前にあれば健康維持につながる。全天候型スポーツ施設があっても良いのでは。 |
| E
委員 | <ul style="list-style-type: none">健康をテーマとしたにぎわいづくりは可能と考えるが、駅前で活動する対象者を市民なのか来訪者なのかを明確にすべきでは。医療機能に限っていえば、病院は市外からの利用者も想定できるが、クリニックであれば市内に限定されると考える。 |

F
委員

- ・議論のあり方についての意見だが、地域で環境・福祉・教育・子育てといった分野で活動されている団体からも意見を聞いた上で、駅前ですることを考えていく必要があるのでは。
- ・心の満足を得るという考え方は重要で、単にハード面の整備だけでは満たされない。
- ・健康をテーマにすることは素敵なことだと考える。

G
委員

- ・健康をテーマにすることは良いと思う。
- ・駅前の利用者は、来訪者に着目すべき。市外から人が来れば対象区域周辺にも影響を与えることができる。
- ・情報発信をもっと積極的に行い、ITのまちと連動させて駅前でアピールすべき。

H
委員

- ・野洲の駅前では、繁華街のようにぎわいでなく、市民が日常的に行き交うにぎわいづくりが求められていると考える。
- ・一時的なぎわいでなく、市民が駅前を利用することでが大事で、こじんまりしたまちづくりによって持続的なぎわいにつながる。
- ・近年、道の駅がにぎわっているのは地元の物産や食材等を提供しているからで、これを駅前に取り戻すことは可能だと思う。
- ・健康には心と体のケアが必要で、体のケアでは地産地消のような食をはじめ、美容やマッサージ、スポーツが考えられる。心のケアでは、図書館で文化に触れることや、緑による憩い、イベントなども有効で、幅広い視点で考えられることから駅前でどのように実現するのが重要。

I
委員

- ・H委員のにぎわいの考え方に共感する。
- ・学生とのワークショップの報告にある「インパクトも規模も大きな開発よりも地域のアンテナショップ的な役割」のように、日常生活の中でのコミュニティがまちづくりには必要。

J
委員

- ・駅前に対する市民の意見では、公園のような空間、現状を維持するような空間を要望する声が多い。
- ・雑多なイメージの駅前が多い中で、緑があふれ地産地消とも組み合わせた健康をテーマとした駅前は魅力がある。

○健康ゾーンに医療機能は必要か

⇒**不必要とは断言できないことから医療機能を含めて引き続き検討する。**

○駅前空間においてふさわしい健康ゾーンのあり方は

⇒**本日の意見を踏まえ、さらに検討を続ける。**

K
委員

- ・新病院整備検討が凍結されたことは残念に思う。
- ・市内に病院は必要で駅前に病院があっても良いと思うが、駅前に病院が有るのか無いのかで大きく左右されるので委員会として方向性を明確にすべき。

B
委員

- ・施設建設ありきの議論なのか。この委員会は構想をとりまとめることが役割なのでは。
- ・既存施設を利用しながら例えば一年単位で環境、福祉、商業などのテーマを設定し、市民の関心を確認してから本格的な整備を進めては。
- ・現状のまま検討を進めても市民が納得する構想のとりまとめができるのかが疑問である。

L
委員

- ・これまで委員会として十分な議論はできていないが、それぞれの立場で意見表明はしており、その内容は一応整理されているのでは。
- ・議論が進まない理由は、市民が現在の環境である程度満足しており、不便を感じることなく日常生活ができているからだと考える。
- ・前回までは幕ノ内弁当的な発想で駅前にあれもこれも盛り込もうとしていたために漠然としていたが、健康をテーマとすることで方向性が見えて話が進みやすくなったと考える。
- ・医療機能が必要かどうかについては、「駅前の健康ゾーンのあり方」の議論の中で方向性が確認されると思う。

A 委員	<ul style="list-style-type: none"> 健康ゾーンのあり方としてはシートNo.11のイメージが網羅されており良いのでは。 散策、ジョギングができるなど全体を公園とした方向性に賛同する。 公園をベースにして必要な機能を配置し、計画的に整備していくことが必要。その中で、イベント開催や商店街との連携も可能になるのでは。
F 委員	<ul style="list-style-type: none"> 概算事業費が提示されているが、高額な投資には疑問を感じる。 やすまる広場という祭りがあるが、多世代が集まりにぎわいがある。市民活動の発表、地産地消の出展や作業所の方も参加していて、駅前で延長線上のような展開ができればにぎわいづくりができる。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> 野洲駅は利便性の高い駅で市内のバス経路は駅が中心となっていることから、市民が利用しやすい空間であるべき。 利用しやすい場所に病院があることは魅力になる。
N 委員	<ul style="list-style-type: none"> 駅前は利便性があるが、病院であれば駅前でなくても行く。税金を補填しないといけなような病院は必要ない。 やすまる広場のような祭りやイベントができる空間が良い。
M 委員	<ul style="list-style-type: none"> 経費的なことはまち全体で考えるべきで、例えば、駅前に病院があることで市民のバス利用が増え、市によるコミュニティバス事業が必要なくなり、民間バス事業のみで可能になれば、コミュニティバスへの費用は削減される。市民にとっても利便性が高まると共に経費削減にもつながる。
D 委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が増えていく中で、バス利用が増えることを期待している。 健康づくりに関して自転車需要もあることから駐輪場が一定確保が必要。 駅北口との動線についても考えなければならない。
L 委員	<ul style="list-style-type: none"> 健康のテーマの中には病院があった方が良いが、道路も狭く交通アクセスが課題で解決できるのかが疑問。 病院利用者の多くは自動車を利用することが多いと想定でき、また、憩いの空間の中に救急車のサイレンが響くことはどうか。 現在総合体育館のある周辺の方が病院も立地しやすく、健康をテーマにした展開もしやすいのでは。 医療機能のうち、診療所は市内で既に飽和状態。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> 建築物を建てない空間、建ててはいけない空間を設定してのゾーニング提案も成立するのでは。 例えば、札幌の大通り公園のように駅から文化ホールへ向かう道路沿いに広場のような空間を設け、それを囲むように健康をテーマとした機能を配置してみるはどうか。 道路に隔てられた区画に施設配置する形式では、持続した賑わいは生まれないと考える。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> 交通アクセスの悪い駅前に病院は必要ない。診療所も市内にはたくさんあることから駅前に医療機能は不要。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> 健康都市として打ち出していく中に、治療という機能は規模的に小さくても必要。予防と治療はセットとして考えるべき。
B 委員	<ul style="list-style-type: none"> 治療としての診療所が駅周辺には十分にあることから必要ないと考える。
H 委員	<ul style="list-style-type: none"> 新しい駅前の空間にあることが重要だと考える。健康にまつわるものを公園を含めセットで考えるべき。
J 委員	<ul style="list-style-type: none"> 交通ネットワークが課題であることは認識している。この検討を踏まえ交通ネットワークも検討する。 イメージから想定されているアリーナやギャラリーも健康につながると考える。

- C
委員
- ・野洲市は京阪神のベッドタウンであるので、市内に総合病院があることは魅力になり必要だと考える。
 - ・病院の配置的には規模があることから駅前よりも奥が良い。

- K
委員
- ・病院については患者の視点だけでなく医師確保の視点も重要で、駅前にあることは有利である。

- 委員
長
- ・駅前で市民が活動することを前提に検討することは当然だが、来訪者も訪れたい空間も合わせてこれまで議論を進めている。
 - ・方針を決めた中で議論を進めていくことが重要で、今回健康をテーマに進めることを委員会として確認したことから、核となるものや段階的なプロセスを考えることが必要。
 - ・健康はヒトの永遠の課題であり、このテーマをまちづくりと併せて展開していくことに魅力が感じられ、南口で求めるにぎわいづくりの期待ができる。そのような中で、健康につながる活動は様々あるが、現段階では医療を含む大きな枠のなかで検討を進めていく。

<傍聴者から>

- ・野洲市では景観条例も施行していることから、整合をとりながら進めていただきたい。
- ・公園を中心に施設を配置する考え方に共感する。

検討委員会としては、「健康をテーマにした駅前空間の形成により、人のつながりによるにぎわいづくりが可能である」ことが確認されたことから、今後は医療機能を含めた中で、どのような空間形成が駅前にふさわしいのかを議論し、構想のとりまとめに向けて検討を進める。

2) その他

○今後のスケジュール等

構想検討の十分な時間を確保するために平成25年9月末まで検討期間延長を提案 ⇒了承